

令和 7 年第 3 回(6 月)市議会定例会本会議報告について

教育総務課

| 質問者・質問の要旨                                                                                                                  | 答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>【坂口吉一議員】</p> <p>●物価高騰における「こどもまんなか宣言」との整合性について</p> <p>①物価高騰を理由に教育活動を見直す動きをどの程度把握しているか</p> <p>保護者への説明方法、市教育委員会としての指針は</p> | <p>【こども・教育部長】</p> <p>市校長会において、各学校の取り組みを情報共有しながら、学校徴収金の学校差が生じないよう配慮している。</p> <p>長野県教育委員会の方針として「すべての学校において、学校徴収金の減額の取り組みを進める」と示されていることから、千曲市教育委員会としても同様の指針を示しているところである。</p> <p>この指針を受け、千曲市のすべての学校が毎年、学校徴収金の見直しを行っている。見直しにあたっては、教職員だけでなく、児童生徒・保護者等の意見を聴くよう配慮している。また、見直された内容については、児童生徒・保護者に丁寧に説明して進めている。</p> |
| <p>②こどもまんなか宣言の整理と共有しているか</p>                                                                                               | <p>「こどもまんなか宣言」は、「すべてのこどもが幸せに暮らせる千曲市」を目指す宣言であり、「こどもや若者にとって最もよいことは何か」を常に考え判断し行動していく取り組みです。そのことについては、千曲市全職員で共有している。</p> <p>したがって、学校徴収金の見直しを行っていくうえでも、子ども達の教育活動に可能な限り影響が出ないようにすることを第一に考え、そのうえで保護者の負担軽減が図られるようにしている。</p> <p>保護者の負担軽減を図り家庭の経済状況の安定につなげていくことは、子ども達の生活を安定させ、幸せに暮らせることにつながると考えている。</p>            |

|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>③こどもまんなかの視点の反映は</p>          | <p>先ほど答弁したとおり、「こどもまんなか宣言」は、「すべてのこどもが幸せに暮らせる千曲市」を目指す宣言であり、「こどもや若者にとって最もよいことは何か」を常に考え判断し行動していく取り組みとなるので、すべての学校教育活動で、この宣言の趣旨が反映されるよう校長会を通して指導する。</p>                                                                                                 |
| <p>市独自の支援制度や財政措置を講じる考えは</p>     | <p>子育て家庭に対する物価高騰対策の支援としては、今年度から長野県価格高騰特別対策支援金のこども加算、国の物価高騰対策重点支援給付金こども加算分、ひとり親世帯に対する千曲市子育て世帯生活支援特別給付金を給付して行っており、また、経済的理由により就学が難しいご家庭には、要保護及び準要保護家庭援助費支給要綱に基づき一定の支援を行っているので、現在、市独自の支援制度は考えていない。</p>                                                |
| <p>④県政・県教委との情報共有や連携体制は</p>      | <p>ご承知のように本年度から、出生から義務教育までの連携を強化するため、こども未来課と保育課が教育委員会に移管され、子育てに関する様々な課題を共有し、その課題解決に向けて連携して取り組める体制となった。</p> <p>したがって、県から発出される物価高騰対策に関する通知や情報については、関係部署と共有し進めていくことが可能となる。</p> <p>今後も、県との情報共有・連携を図り、こどもまんなか社会の理念と現場の実情がつながった様々な取り組みを展開するよう努めていく。</p> |
| <p>●部活動地域移行における制度と現場の乖離について</p> | <p>【教育長】</p> <p>はじめにご理解していただきたいこととお話ししてからご質問の答弁をさせていただく。</p> <p>ご承知のように、部活動地域移行は、令和2年9月に国から示された「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」に基づき進められている。</p> <p>今まで学校が担ってきた部活動を地域が担っていくことは、歴史的な大転換と言われるとおり、</p>                                                            |

|                                        |                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                        | <p>当初から多くの課題が予想されていた。</p> <p>「地域の実情に応じて地域移行をする」という国の方針をもとに、千曲市・坂城町の関係者で協議を重ね、「自治体の責任で地域移行していくことがベストではないか」という結論になり、様々な試行を重ねながら現在に至っている。</p> <p>現在でも、多くの課題があるが、みんなで知恵を出し合い、解決に向けて努力しているところであることはご理解いただきたい。</p>                |
| ①千曲坂城クラブの今後の財政構造について、持続可能な体制と考えているのか   | <p>持続可能な運営にしていくためには、国からの補助金に頼らない運営にしていくことが必要と考えている。市町からの活動費（負担金）の財政的支援は、今後お願いしていくが、財源の主たるものは、会費になろうかと思っている。会員数が減少し、収入が想定を下回った場合については、収入の範囲内で可能な活動をしていくことになると考えている。</p>                                                      |
| ②月 3,000 円の会費を前提とする運営方針について、制度上の矛盾はないか | <p>まず、会費についてですが、来年度から年会費のほかに活動時間に応じて月会費を設定し、上限を月 3,000 円にするよう計画している。</p> <p>保護者を含め多くの方のご意見をもとに「家庭の経済状況に関係なく参加できる」基本理念を大事に、より低廉となるよう設定している。</p> <p>今後、就学援助制度との連動については、研究していきたいと考えているが、経済的な事情で活動を諦める生徒が出ないように最大限の配慮をしていく。</p> |
| ③送迎における支援体制は、現場レベルで使われているのか            | <p>学校間移動の支援については、千曲坂城クラブの事業として計画されているものであり、当然クラブの責任で行われている。</p> <p>学校間移動については、まず、各専門部の事務局が集まる「千曲坂城クラブ専門部事務局会」において周知し、各専門部・各班でどの程度要望があるのか計画を提出していただき、それに基づき予算の範囲内で支援を行っている。</p>                                              |

|                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>④学校が部活動として果たしてきた役割を誰がどう引き継ぐのか</p>    | <p>今年度は、6 専門部に対し支援を行っている。</p> <p>部活動地域移行は、「地域の子どもは、学校を含めた地域で育てる」という共通理解の下で進められるものである。</p> <p>したがって、部活動の持っていた教育的意義を可能な限り継承していけるよう、学校とクラブは可能な限り協力しあって指導が進められるようにしている。</p> <p>また、クラブの指導にたずさわる地域指導者が、子ども達の前に立つ指導者としての力量が高まるようクラブ独自で研修も行っている。</p>                                                                                                                                                         |
| <p>⑤誰ひとり取り残さない地域クラブ運営を真に実現する覚悟があるのか</p> | <p>設立当初から千曲坂城クラブの基本理念として、「すべての子ども達にスポーツ・文化芸術活動を保障する」を掲げている。</p> <p>課題は山積しているが、この基本理念をこれからも貫きたいと考えている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <p>⑥賛助金の目標額は何を根拠に設定されたものなのか</p>         | <p>ご承知のように、賛助会員制度は令和 5 年 9 月にスタートした。</p> <p>地域の商工会議所・商工会の会議へ出席してのお願い、団体法人等へのチラシ配布、個別訪問してのお願い、クラブだよりを通じたお願い等を行い、令和 5 年度は、7 か月で 71 万 8 千円を集めることができた。</p> <p>しかしながら多くの皆様方から、厳しい財政状況等のお話も伺った。</p> <p>これらのことを踏まえ検討した結果、「100 万円以上確保」の目標が妥当と考えている。おかげさまで、昨年度は 102 万 2 千円を集めることができ目標が達成できた。</p> <p>今後もより多くの皆様に賛助会員となっていただけるよう、部活動地域移行としての千曲坂城クラブ、そしてすべての子ども達にスポーツ・文化芸術活動を保障する千曲坂城クラブであることの理解が進むよう努力していく。</p> |

⑦目標額の設定根拠と集金戦略はもっと明確かつ計画的であるべきではないか

【宮下繁明議員】

●上山田小学校・治田小学校の「耐力調査」と今後の方向性について

①小学校の現場を視察した所見は

【再質問】

指示した具体的な内容は

クラブ運営に必要な財源の主を、賛助金にしていく、言い換えれば、クラブのために出資してくださる多くのスポンサーを確保するということだと思う。そうしていくことは理想と思うが、いま大事なことは、先ほども答弁したとおり、部活動地域移行としての千曲坂城クラブをもっと多くの皆様方に知ってもらうこと、そして千曲坂城クラブの活動は「地域の子どもは、学校を含めた地域で育てる」活動であり、すべての子どもたちにスポーツ・文化芸術活動を保障していく活動であることを理解していただくことだと思っている。

今年度もあらゆる機会を通してクラブを広報し、ご理解していただける方を増やし、出資していただける方の増加につなげていきたいと考えている。

【市長】

4月に上山田小学校、5月に治田小学校を視察した。

その際、学校から現状や困りごとなどをお聞きし、経過年数による建物や設備・備品の老朽化等により、不便な部分もあることが分かった。

学校運営や授業に支障がある部分については、学校からの連絡や学校訪問時に確認し、迅速に対応しているが、視察の際にお聞きした不具合などの案件についても、両校以外の学校も含め、可能なところから対応するよう指示したところである。

【市長】

児童用の下駄箱の錆、理科室の机の天板のキズ、スピーカーの調整などの備品設備について、交換・修繕するよう指示をした。

②「耐力度調査」後の改築・大規模改修のスケジュール及び事業費は

【再質問】

今後の概算の見通し、スケジュールを示していただきたい

【こども・教育部長】

耐力度調査については、本議会での補正予算（案）が承認され次第、発注手続きを行い、今年度中に調査を完了させる予定である。

スケジュール及び事業費につきましては、調査結果及びその後の検討結果により、決定すべきものであるので、現在、お示しできるものはありません。

【こども・教育部長】

今年度、個別施設計画の見直しを行う予定である。

計画の中で今後の対応方針として、少子化における適切な学習環境の確保、地域の中核としての学校施設のあり方を念頭に置いて、施設の劣化度、社会状況、市の財政状況等を考慮し、財政課と協議しながら見直しをしていく予定である。

スケジュールとしては、調査の結果改築となった場合には、いつからとは言えないが改築委員会を設置しての検討、基本構想の策定、その後に基本計画の策定、基本設計、実施設計まで、4年から5年はかかるのではないかと想定している。

先ほど個別施設計画を見直すと申し上げたが、大規模改修の考え方について、両校とも長寿命化改修等を行う時期に来ているが、財政負担が集中するということで、学校施設の適正規模・適正配置の検討や、他の公共施設との複合化などについて検討したうえで、計画を策定する必要があると考えている。また、再編計画や個別施設計画の実施・実現に向けて、児童生徒数が減少し、少子化の進行が教育環境に影響を及ぼすことが見込まれることから、早急な対応をしていかなければならないと認識している。

そこで今年度から、千曲市立学校の目指すべき学校教育委環境の整備に向けた取り組みに関して、検討を始めた。すでに5月29日に第1回の庁内検討会議を開催して議論をしたところである。

【再々質問】

小学校の統廃合の問題か、公共施設の統廃合の問題か、どちらのことをおっしゃられたのか

【林慶太郎議員】

●学校施設と学びのあり方について

(1) 学校施設のあり方について

①現状の課題認識と今後の対策は

【こども・教育部長】

先ほどの答弁では、統廃合という言葉は使っていないと思うが、現行の再編計画の中で学校施設の再編の方向性をお示ししているが、小学校は児童数の減少が見込まれるということで、大規模改修・建替の際は、学校をなくすということではなく床面積を縮減して維持していくということ。使用しなくなった普通教室に児童センター・児童館機能に移転して複合化を図るということなので、統廃合ということではありません。

【教育長】

現在、千曲市内には市立の小学校9校、中学校4校があり、令和7年度当初の児童生徒数は、小学校2,795人、中学校1,374人ですが、全国的に進む少子化は千曲市でも同様であり、一部増加予想の学校もあるが、全体として減少し続けている。併せて、多くの小学校で建物が築40年を経過し、施設の老朽化が進行している。

国（文部科学省）が示す学校規模の標準では、小中学校ともに、「12～18学級」を標準規模としている。しかし、令和7年度の千曲市内の小学校9校のうち4校、中学校4校のうち2校が標準規模を下回る小規模学校（11学級以下）となっている。

そのため、これからを生きる子ども達の資質・能力を育てるための「少子化に対応した新たな学校づくり（教育環境）」、そのための学校施設の「適正規模・適正配置」、「学校と地域との連携のあり方」について、現在、庁内で検討をしているところである。

②重視する学び以外の要素や、地域に最も求められている機能は

学校施設は、未来を担う子ども達を育む施設であるとともに、地域のコミュニティの核として、防災や地域の交流の場等の機能を併せ持つて

|                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                               | <p>おり、一部の学校では、放課後児童クラブの実施や地域図書館の開設、そしてすべての学校施設で社会体育の利用、また、学校が地域の防災の拠点として、市の緊急指定避難所・指定避難所として重要な役割を果たしている。</p> <p>学校はまちづくりのあり方と密接不可欠であり、学校施設のあり方を考える際には、学校や地域の特性などを十分に踏まえながら進めていく必要があると考えている。</p> <p>市では、目指す子どもの将来像として教育大綱で「一人ひとりの個性を照らす 生きる力と夢を育む 育ちを支え、人がつながる 千曲の教育」と掲げ、第二次千曲市教育振興計画に教育における基本目標として、「一人ひとりの個性を尊重し、生きる力を育む教育環境をつくる」を設定し、具体的な取り組みを毎年度設定し、令和7年度の学校教育の重点としては、学力の向上「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、生徒指導の充実「安心な居場所づくり・外部機関との連携」、情報活用能力の育成「主体的に学ぶ力の育成」、ふるさと学習の推進「地域資源「ひと・もの・こと」から学ぶ」、部活動の地域移行の推進（「平日移行に向けての体制整備」を含む）により推進しているところである。</p> |
| <p>③学びのあり方として市が重要視する点とは</p> <p>④学校施設の統廃合や再編について、手法の一つとしてその可能性をどのように考えているか</p> | <p>1 点目の質問でも答弁したとおり、急激な少子化、学校施設の老朽化を踏まえ、現在、庁内検討会議で検討をしているところであるが、少子化に対応した新たな 学校づくり（教育環境）の検討を進めるうえで、国が示す標準規模を下回る学校もあることから、通学区の見直しなどをはじめ、学校施設の統廃合（再編）についても検討していく必要があると考えている。しかし、2 点目の質問で答弁したとおり、学校は地域のコミュニティの核・地域の防災の核としての機能等も持ち合わせていることから、地域の状況により、統廃合が困難な場合や小規模校として存続させ</p>                                                                                                                                                                                                                                                                |

|                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(2) 保育施設について<br/>保育施設と学校施設の連携した改修・統廃合は</p> <p>(3) 小中一貫教育への所感は</p> | <p>る必要がある場合等もあることから、それぞれの学校の状況や課題を洗い出し、多くの意見を出し合いながら検討を進めていきたいと考えている。</p> <p>【教育長】<br/>学校施設と保育施設が近いことは、児童と園児との交流が容易になり、教職員と保育士との連携も取りやすくなり、保育園・幼稚園と小学校のスムーズな接続が可能になるメリットがあると考えている。</p> <p>少子化に対応した新たな学校づくり（教育環境）の検討を進める中で、保育園をはじめ、他の公共施設との複合化・共同化の可能性についても検討していく。</p> <p>【教育長】<br/>議員ご指摘のとおり、「義務教育学校」による小中一貫教育の取り組みには、9年間を見通した一貫した教育活動が実施されることにより、学習意欲が向上したり、異なる年齢とのコミュニケーションの機会が増え、児童生徒が互いを思いやる気持ちが育まれ、小中の接続がスムーズに行え、いわゆる中1ギャップが減少するといった学習指導・生徒指導上の効果が期待される。</p> <p>一方、小学校高学年の児童がリーダーシップを発揮する機会が少なくなり、自主性や積極性が育ちにくかったり、小中合同の活動時に、小学生に合わせた表現や動きになり、中学生に必要な判断力や自主性を養う機会が少なくなったりすることも懸念される。</p> <p>いずれにしましても、小中の9年間を通して子どもたちが育つための教育基盤を整えていくことは重要と考える。</p> <p>今後、子ども達にとって最適な学びのあり方を検討していく中で、小中一貫教育についても検討していきたい。</p> |
|----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【再質問】

埴生小中連携のあり方について学校運営委員会でも話し合いがされたり、これまでも様々な取り組みがなされている。唯一小学校 1 校から進学する埴生小中連携のあり方を活かしていくことも十分考えられるのではないかとと思うが、所見を伺う。

【教育長】

私が埴生小の校長時代には、学校区の市立・私立保育園や幼稚園の園長と小中の校長とが情報交換を目的に各園を回りながら子ども達の様子を見るなどの校長研修をしていた。また、長期休みには低学年の教職員に各園に研修に行き、保育士がどのように子ども達に接しているか、それを小学校でどのように活かせばよいかといった研修もしていた。

議員ご発言の学校運営委員会でも話し合いがあったということで、埴生小・埴生中の連携がまた始まってきているということは非常にありがたい。埴生小の卒業生の90%が埴生中に入学していく中で、中1ギャップの克服、カリキュラムの関係などをスムーズにできればよいと思っている。教職員がお互いに授業の交換ができればなおさら良いが、限られた授業実数の中でやっていくことは非常に難しいことでもあるので、まずは、教職員同士がどのように連携をとって子ども達に向かえばよいのかといったところを、お互いに共通理解を図りながら進めていってもらえれば大変うれしい。学校運営委員会の中で、地域の皆さん方もそういう認識が出て来ていただいたということはうれしく思う。これが大きく実ってくると、他の学校もそれをモデルとしてやっていければ、大変良い事例になるのではないかと思います。

(4) 将来的なあり方を今から考えるべき

① プールのあり方について、現状での検討の進捗は

【教育長】

千曲市内の市立小中学校では、現在、13 校すべてに設置された自校プールにおいて、学年別に指導内容及び目標が定められている学習指導要領に基づいた水泳指導を実施している。

本市の水泳授業は、1 学期の 6 月中旬から 7 月下旬にかけて実施しているが、屋外プールの水泳授業は、天候により実施が左右されることや近年

|                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>②全ての可能性を視野に入れたあり方を検討する組織の立ち上げを</p> <p>【再質問】<br/>まだ、検討の段階であるので、統廃合</p> | <p>の気温上昇に伴う熱中症への対応が必要になることも多く、計画的な実施が難しくなっている。また、水泳の技能指導に不安のある教職員も多くいるのも実情です。</p> <p>加えて、プール清掃、塩素投入等の水質管理、授業時の安全管理としての監視員確保が必要であり、教職員等の大きな負担となっている。</p> <p>施設面においては、学校プールの 9 割以上が設置から 20 年以上経過（うち 40 年以上は 4 校）し、老朽化が進み、各施設の維持管理や修繕に毎年多大な費用を要し、そのうえ、設置後 20 年を目途に、ろ過機を取り替える必要がある。</p> <p>これらを踏まえ、水泳授業の必要性を認識しながら、水泳学習の機会確保、水泳指導の充実、教職員の負担の軽減、維持管理コストに着目し、今後のプール施設の効率的・効果的な運用についても、学校のあり方検討会議と併せて、検討を進めているところである。</p> <p>現在は、近隣市の取り組みを研究しながら、「水泳授業・水泳指導の考え方」、「近隣校、埴生中学校屋内プール、市民プール施設の活用」、「学校プール施設の更新・維持・廃止」について協議を行い、各校の状況や課題の洗い出しをしているところである。</p> <p>【教育長】</p> <p>まずは、庁内での検討会議において、各校の状況と課題を洗い出し、それとともに千曲市における学校のあり方について、様々な角度から検討を積み重ねたいと考えている。</p> <p>そのうえで、先行他市の事例も参考にしつつ、外部有識者、市民委員等を加えた検討組織を立ち上げ、慎重に検討を進め、「千曲市小中学校のあり方に関する基本方針（仮称）」を策定していきたいと考えている。</p> <p>【教育長】</p> <p>個人としては、統廃合ありきの拙速な結論で</p> |
|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

についても議論にならなければいけないと思うが、再度所見を伺う。

【川嶋敬信議員】

●屋代南高校について

(1) 署名簿提出と今後の取り組みは

進めたくはない。先ほどの答弁のとおり、地域にはいろんな事情がある。そういった実情を踏まえながら、子ども達にとって魅力ある学校をまずは根付かせなければいけない。そのためにはどうしたらよいか議論していきたい。そして、庁内検討会議で、段々と議論が煮詰まってきたところで、新しい時代に求められる子ども像も踏まえながら、外部有識者、保護者、地域代表などの皆様を含めながら、丁寧に地域の合意を得ながら議論をしていきたい。

【教育長】

4月7日、市長が会長を務める「豊かな学びを育む会」が県庁を訪れ、産業界と行政が一体となり市民運動として昨年11月から集めた、千曲市内県立高校2校の維持存続を求める1万1,982人分の署名を長野県教育委員会 武田教育長に手渡した。

その後、5月12日、第7回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会が、市役所を会場に開催され、学びのイメージの検討、校地検討の進め方について検討を行った。校地検討の進め方では、事務局の県教育委員会から、校地に特化して検討を行う専門部会の設置要綱（案）について説明があり、「校地検討部会」の設置が承認された。

校地については、「まず区域内に県有地があるか検討し、ない場合は屋代南高校か更級農業高校のいずれかになるが、各観点から議論していく」との説明があった。

新校の校地については、今後、校地検討部会で校地・校舎の環境、通学環境、教育環境の観点などから検討していくこととなるので、部会の場、あるいは懇話会で市としての考えを述べ、意見交換を重ねていきたいと考えている。

市としましては、署名簿提出の際、県教育長に申し上げましたが「屋代南高校は近くに屋代駅が

【再質問】

要望活動の後、市長は地元の皆さんに話をして次の活動を掲げていきたいと発言されたようだが、地元にはどのような話をしたのか、あるいはその後の活動方針は決まっているのか

【再々質問】

屋代南高校の校地を使用する場合、まずは農地の確保がネックとなる。新たな場所を適地とする場合、しなの鉄道沿線の農地や千曲駅周辺、老朽化した市営住宅など案が色々あると思う。そういった案を県教委に示すことが説得材料になるのではないかと  
もう一点、更級農業高校の農地面積を調べているか、適地を探すうえで調査をされてはどうか

【堀内太一議員】

●子供の通学時の安全確保について

(1) キッズ携帯使用について  
所持についての市の所見は

あり、子どもたち、教職員にも通いやすい場所、しなの鉄道の利用促進や地域の活性化にもつながる」として、屋代南高校の校地を新校の候補地としてねばり強く要望していく。

【市長】

署名簿提出後に地元の皆さんを対象に私が話をしたということはまだしていないが、これまでの屋代南高校を発展させる会と豊かな学びを育む会を発展的に統合させてはどうかとのご意見も会員にありまして、そういった手順を経た中で、今後、皆さんと話し合う機会をつくっていきたい。提出からまだ日数もたってなく、次回の懇話会も予定されているので、すぐには結論が出ない案件であるので、丁寧にこれまでの経過や今後の傾向についてお話していきたい。

【教育長】

懇話会の中では、目指す新校の学校像が煮詰まっていない。更級農業高校には敷地の中に広大な農地があり、スクールバスで行く離れた場所にも農地がある。まだまだ目指す学校像、生徒像が固まってきていないので、それが程度固まってきたところで校地はどうするか専門部会で話し合う段取りであると思うので、議員からいただいたご意見を参考にしながら、これから新しく屋代南高校を発展させる会と一緒に豊かな学びを育む会と話し合いをしながら市の中でも共有して対応していく。

【こども・教育部長】

所持については、ご家庭の考えによるところとなるが、児童数が減少を続けている現在、登下校時に1人となる場面も考えられることで、保護者のみなさんのご心配も当然のことと思う。

携帯電話等の持ち込みについては、ご家庭の

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(2) キッズ携帯や GPS 端末の貸与について<br/>導入の検討を</p> <p>【再質問】<br/>ドコモのキッズ携帯は税込み 550 円で、それに対して他の自治体では 300 円の補助を出しているところもある。また、IC カードを利用して見守りサービスしているところもある。浜松市、名古屋市、大阪市などであるが、大阪市ではランドセルに IC タグを付けて見守りをしている。決められたところを通ると反応して保護者に伝わるようなシステムが導入されている。こどもまんなか宣言をしている千曲市が、子どもの登下校の安全を保障するために市長はどの様に考えるか</p> <p>【再々質問】<br/>確かに大都市とは財政力は違うが、千曲市に生まれ育っているから安全が担保できないということはあってはならないと思うが、市の考えは。</p> | <p>事情により必要に応じて、各学校で判断しているので、学校にご相談いただきたい。</p> <p>【こども・教育部長】<br/>新 1 年生を迎えた 4 月以降、通学途中の事故のニュースを見ない日が無いと思うほど連日の報道が続いている。幸い当市においては今日まで通学時の大きな事故や事件はありません。これは、各校において組織されている「子どもを守る会」などにご協力いただいている保護者、地域のみなさまのお力に寄るところが大きいと感謝申し上げます。</p> <p>議員ご提案の通学時の安全確保という面からデジタル端末を利用する案にきましては、参考にさせていただきたい。</p> <p>【市長】<br/>子どもの安全を守る取り組みはとても重要なことである。議員ご指摘の子どもの安全は、交通安全への対策と防犯を一緒にまとめてキッズ携帯等だと思うが、交通安全はまた違う対策が必要になる。防犯に対してはキッズ携帯等も必要とは思いますが、例を挙げていただいた自治体はいわゆる大都市で財政力が違う。千曲市の実情に合わせた交通安全対策、防犯対策を考えなければいけない。教育委員会をはじめ庁内で、子どもの安全について検討していく。</p> <p>【市長】<br/>端末の補助金をもって安全を担保するといった考えもあろうかと思うが、大都市とは犯罪率も違うと思う。交通安全対策と防犯をしっかり区別して、市ができるより良い子どもの安全に対する事業を行っていききたい。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>【再々質問】</b></p> <p>交通安全では、様々な場所にグリーンベルトが設置されているが、他の箇所にも多くの設置要望が出ている。できるだけ早く優先的に対応していただき、子どもの安全を守っていただき、一緒に防犯上の面もあるので検討いただきたい。</p> | <p><b>【市長】</b></p> <p>まだまだ通学路の安全対策にかかる予算もあるので、直ちに GPS 端末等に財源を充てるよりは、現状においては、交通安全対策として歩道やグリーンベルトの整備を優先されるべきではないかとわたくし自身は思っている。まずは、他の必要とされている対策に財源を充てて、それでなお且つ余裕があるようであれば GPS 端末等の補助等も、今後は研究していきたいと考えている。</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

部課名 生涯学習課

| 質問者・質問の要旨                                                                                                                                                                                                                                             | 答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>一般質問</p> <p><b>【早志圭司議員】</b></p> <p>◆ 公民館等にある備品への補助について</p> <p>各自治会・区において、公民館等の建物の建設・増築またはリフォームを行う際は、千曲市コミュニティ振興対策事業補助金あるいは公民館分館建設事業補助金が使えるが、次の場合はどちらかの補助金の対象になるのか。</p> <p>① 雨漏りなど建物の修繕が必要な時</p> <p>② トイレや炊事場等の水周りの修理</p> <p>③ 冷暖房機の設置・修理又は買い替え</p> | <p><b>【吉池こども・教育部長】</b></p> <p>公民館分館建設事業補助金は、千曲市公民館条例施行規則に規定する 71 の公民館分館を対象として、施設の新築及び改築、増築、修繕などに要する経費の一部を補助する制度となっており、予算の範囲内で補助金を交付している。ご質問の雨漏りなどの建物の修繕、トイレや炊事場等の水回りの修繕、冷暖房機の設置、修理又は買い替えのいずれも、対象となる公民館分館であれば、補助金の交付申請をしていただくことができる。</p> <p>また、コミュニティ振興対策補助金の中の集会施設整備事業については、市民生活課の所管となるが、公民館分館建設事業補助金の対象とならない、公民館分館より小さい地区の集会施設、例えば区の常会で所有している集会所の新築及び改築等に要する経費の一部を補助する制度で、ご質問の施設の修繕などについて補助金の対象となる。</p> |

◆必ず交付決定通知書を受領してからの着手の理由は

どちらの補助金の説明欄にも事後の申請はお受けできませんと明記してある。改めてその理由をお示しください。緊急性などを考慮した例外はないのか。

補助金交付要綱のなかで、補助金の交付を受けようとする者は、交付申請書を提出するとしており、申請書に添付する書類には、公民館分館建設事業計画書を添付していただく。市では、申請書の内容を審査のうえ交付を認めたときは、公民館分館建設事業補助金交付決定書を申請者に交付する。申請者は、交付決定の後に事業着手し、事業完了後は実績報告書に領収書等の関係書類を添えて市に提出していただく。この実績報告書に基づき事業を審査した後、補助金を交付することとなっている。

なお、市民生活課所管のコミュニティ振興対策補助金の集会施設整備事業についても同様であり、また、いずれの補助金交付要綱も、千曲市補助金等交付規則に沿った手続きが必要となる。なお、事後申請の場合、交付対象でない事業であれば補助金は交付されず申請者に不利益となることも想定されることからリスク回避の面もあることにご理解いただきたい。

多くの区・自治会より補助金の申請についてご相談をいただくが、緊急性のない修繕については、計画的に修繕を実施していただくようお願いをし、予算の確保が可能となる次年度以降に順次対応している。しかし、台風で屋根が飛んでしまった、壁に穴が開いてしまった等の緊急性を伴う事態が発生した場合は、直ちにご連絡をいただければ速やかに対応して行く。

#### 【再質問】

区長になりたての方が、補助金を知らずに修理してしまい、後から市へ相談に行ったが受け付けられなかった。

事後であっても門前払いではなく「今年はだめでも来年度は出しますよ」という姿勢が大事ではないか。

事後申請を一切受け付けないという態度では、今後、役員のなり手もなく、コミュニティも崩壊するのではないか。

補助金制度を活用しての事業については、全国的にも交付決定後に着手することが基本となっている。理由は、事前に着手した者だけが有利になってしまう可能性もあり、制度の公平性を保つということ。

予算も限られており、補助金制度の活用を予定していた者が、交付決定前に支払いが発生している者がいた場合、予算がその分なくなってしまう。市の補助執行の管理が、難しくなる面もある。

ただし例外で、災害その他緊急性が認められるものについては、かなり限定的な条件のなかで、制度を運用しているので、ご理解いただきたい。

毎年、区・自治会長の皆さまに対し、区長会連合会総会の際（今年は、4 月 10 日）に、行政連絡として公民館分館建設事業補助金について、説明を申し上げている。翌月、地域要望説明を 5 月 14 日に更埴地区、15 日に戸上地区の説明会の際にも、公民館分館建設事業補助金について、補助の対象、経費補助率、補助金の申請から支払いまでの流れを説明させていただいているので、ご承知いただきたい。

区長も説明は受けるが、補助金についてその場面に接して初めて理解する。事前に申請すれば補助金が出て、事後申請では出ないということが、はたして公平なのか。少しぐらいの遅れなら待つなど、柔軟な対応をとっていただくよう強く願います。